

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 7 号を公表したので送付します。

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 7 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ及びイネヨトウ)
- 3 発生地域 先島諸島、南大東島

4 注意報発令の根拠

- (1) 令和 7 年 1 月中旬、宮古島市において新植夏植えほ場 20 地点で芯枯茎調査を実施した結果、芯枯茎率は 14.8%であった (図 1 左)。この値は、平年値よりやや高い「並」の水準となるものの、国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「多」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100%であった。芯枯茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は計 74 頭で、その内訳は、カンシャシクイハマキが 67.6%、イネヨトウが 32.4%であった。
- (2) 令和 7 年 1 月上旬、石垣市において新植夏植えほ場 12 地点で芯枯茎調査を実施した結果、芯枯茎率は 11.7%であった (図 1 右)。この値は、平年値よりやや高い「並」の水準となるものの、国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「多」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100%であった。芯枯茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は計 30 頭で、その内訳は、イネヨトウが 96.7%、カンシャシクイハマキが 3.3%であった。
- (3) 令和 7 年 1 月下旬、南大東において新植夏植え及び株出しほ場 10 地点で芯枯茎調査を実施した結果、芯枯茎率は 23.3%であった。この値は国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「甚」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100%であった。確認されたメイチュウ類はカンシャシクイハマキとイネヨトウであった。

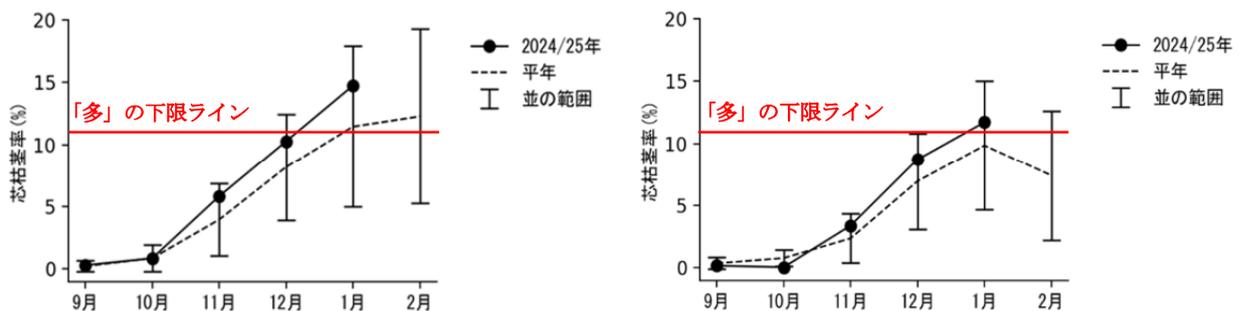


図 1 メイチュウ類 (芯枯茎率) の発生推移 (左: 宮古島市 右: 石垣市)

5 発生生態および被害

(1) メイチュウ類共通

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ（図2、3）を起こす。

(2) カンシャシンクイハマキ（図4）

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(3) イネヨトウ（図5）

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を施用する。
- (3) 茎葉への水和剤等の散布は、葉鞘内に薬液が十分に行き届くように丁寧に散布する。MEP単独成分の剤は感受性低下の報告があるため、他の剤を中心に散布する。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。



図2 芯枯れの様子（多発圃場）



図3 芯枯れ茎



図4 カンシャシンクイハマキ幼虫

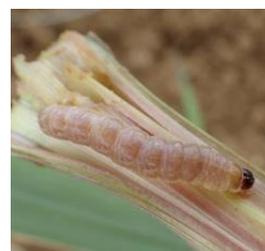


図5 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

